

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第57期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 カワセコンピュータサプライ株式会社

【英訳名】 KAWASE COMPUTER SUPPLIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 初山 政彦

【本店の所在の場所】 大阪市中央区今橋二丁目4番10号 大広今橋ビル

【電話番号】 06(6222)7474

【事務連絡者氏名】 常務取締役営業本部長兼 川瀬 康平
最高財務責任者

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区今橋二丁目4番10号 大広今橋ビル

【電話番号】 06(6222)7474

【事務連絡者氏名】 常務取締役営業本部長兼 川瀬 康平
最高財務責任者

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所

(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

カワセコンピュータサプライ株式会社東京支店

(東京都中央区銀座六丁目16番12号丸高ビル4階)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次		第56期 第3四半期 累計期間	第57期 第3四半期 累計期間	第56期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(千円)	2,456,914	2,618,566	3,230,856
経常利益又は経常損失()	(千円)	40,392	50,518	114,636
四半期純利益又は四半期(当 期)純損失()	(千円)	69,673	29,371	213,272
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	1,226,650	1,226,650	1,226,650
発行済株式総数	(株)	5,160,000	5,160,000	5,160,000
純資産額	(千円)	3,676,626	3,505,383	3,530,738
総資産額	(千円)	4,647,787	4,583,737	4,619,601
1株当たり四半期純利益金 額又は四半期(当期)純損 失金額()	(円)	14.40	6.07	44.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			10
自己資本比率	(%)	79.1	76.5	76.4

回次		第56期 第3四半期 会計期間	第57期 第3四半期 会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金 額	(円)	1.30	6.36

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益については、記載しておりません。
- 3 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 4 第56期第3四半期累計期間及び第56期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第57期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの立ち直りが予想以上のペースで進み、生産や輸出は概ね震災前の水準に回復するなど、持ち直しの動きは続いておりますが、欧州金融危機の影響による世界経済の減速や歴史的な為替円高の進行により、景気の先行きは引き続き不透明な状況となっております。

ビジネスフォーム業界におきましても、オフィスのデジタル化やコスト削減による総需要量の減少が続く、その中で価格競争が激化するなど厳しい環境が続きました。

このような状況下、営業におきましては、厳しい環境下においても成長を続ける通販業界の開拓や既存取引先の需要掘り起こし及び中央官庁をはじめ市区町村、外郭団体へのアプローチを中心に活動いたしました。

当第3四半期累計期間の業績は、売上高が2,618百万円（前年同期は2,456百万円の売上高）、経常利益50百万円（前年同期は40百万円の経常損失）、四半期純利益29百万円（前年同期は69百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ビジネスフォーム事業

景気の低迷による総需要量の減少および価格競争の激化の影響により、売上高1,685百万円（前年同期は1,745百万円の売上高）、セグメント利益は129百万円の利益（前年同期は80百万円の利益）となりました。

情報処理事業

金融関連の需要減の影響はありましたものの、幅広く新規案件獲得に向け活動を行いました結果、売上高932百万円（前年同期は711百万円の売上高）、セグメント利益は163百万円の利益（前年同期は182百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間における流動資産は前事業年度末と比べ54百万円増加し、2,453百万円となりました。これは主に「定期預金」の50百万円を短期のものへ変更したことで「現金及び預金」が34百万円増加し、その他「受取手形及び売掛金」が62百万円増加しており、これに「有価証券」が71百万円減少したことによるものです。固定資産は前事業年度末と比べ90百万円減少し、2,130百万円となりました。これは主に「投資その他の資産」に含まれる「投資有価証券」が50百万円、「保険積立金」が12百万円それぞれ増加し、「有形固定資産」が103百万円減少したことによるものです。

流動負債は前事業年度末と比べ19百万円増加し、808百万円となりました。これは主に「買掛金」が32百万円、「その他」に含まれる「未払金」が24百万円それぞれ増加し、「短期借入金」が30百万円減少したことによるものです。固定負債は前事業年度末と比べ29百万円減少し、269百万円となりました。これは主に、「その他」に含まれる「リース債務」が32百万円減少したことによるものです。

純資産の部は前事業年度末と比べ25百万円減少し、3,505百万円となりました。これは配当金支払いの48百万円と四半期純利益29百万円の計上により「利益剰余金」が19百万円減少したことによるものです。

(3) 対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は14百万円であります。

(5) 従業員数

当第3四半期累計期間において、従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第3四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,640,000
計	20,640,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,160,000	5,160,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株でありま す。
計	5,160,000	5,160,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年12月31日		5,160,000		1,226,650		1,171,200

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 321,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,832,000	4,832	
単元未満株式	普通株式 7,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	5,160,000		
総株主の議決権		4,832	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式760株が含まれております。
- 3 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。
- 4 当第3四半期会計期間末の当社所有自己株式は321,760株であります。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) カワセコンピュータ サプライ株式会社	大阪市中央区今橋 2 4 10 大広今橋ビル	321,000		321,000	6.23
計		321,000		321,000	6.23

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間までの役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,688,147	1,723,008
受取手形及び売掛金	524,189	586,681
有価証券	71,601	-
商品及び製品	36,713	40,712
仕掛品	13,819	16,288
原材料及び貯蔵品	34,403	32,371
その他	30,142	54,684
貸倒引当金	111	126
流動資産合計	2,398,905	2,453,619
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	499,392	463,263
土地	539,125	533,457
その他(純額)	577,936	516,188
有形固定資産合計	1,616,454	1,512,909
無形固定資産	111,764	111,545
投資その他の資産	492,477	505,663
固定資産合計	2,220,696	2,130,118
資産合計	4,619,601	4,583,737
負債の部		
流動負債		
買掛金	163,118	195,146
短期借入金	436,640	406,640
未払法人税等	11,153	8,643
賞与引当金	42,988	23,206
その他	135,519	174,908
流動負債合計	789,419	808,545
固定負債		
長期借入金	13,360	8,380
退職給付引当金	35,153	38,599
役員退職慰労引当金	24,026	28,197
その他	226,903	194,632
固定負債合計	299,443	269,809
負債合計	1,088,863	1,078,354

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,226,650	1,226,650
資本剰余金	1,172,655	1,172,655
利益剰余金	1,216,571	1,197,556
自己株式	80,126	80,211
株主資本合計	3,535,750	3,516,650
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,012	11,267
評価・換算差額等合計	5,012	11,267
純資産合計	3,530,738	3,505,383
負債純資産合計	4,619,601	4,583,737

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	2,456,914	2,618,566
売上原価	1,855,081	1,949,787
売上総利益	601,833	668,779
販売費及び一般管理費	640,370	644,887
営業利益又は営業損失()	38,537	23,892
営業外収益		
受取利息	2,277	811
受取配当金	1,717	3,597
助成金収入	16,319	30,282
その他	12,699	12,501
営業外収益合計	33,014	47,193
営業外費用		
支払利息	10,671	10,794
投資有価証券評価損	18,832	6,462
その他	5,365	3,309
営業外費用合計	34,870	20,567
経常利益又は経常損失()	40,392	50,518
特別利益		
固定資産売却益	5,622	435
貸倒引当金戻入額	11	-
特別利益合計	5,633	435
特別損失		
固定資産除却損	4	1
固定資産売却損	-	6
投資有価証券売却損	278	-
投資有価証券評価損	12,655	8,882
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,159	-
損害賠償金	5,944	5,896
その他	405	-
特別損失合計	23,447	14,787
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	58,205	36,166
法人税、住民税及び事業税	6,458	6,794
法人税等調整額	5,009	-
法人税等合計	11,467	6,794
四半期純利益又は四半期純損失()	69,673	29,371

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額	1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額
投資その他の資産 13,067千円	投資その他の資産 12,734千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

なお、のれんの償却額は該当がありません。

	前第3四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
減価償却費	164,707千円	158,492千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	48,396	10	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	48,387	10	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	ビジネスフォー ム事業	情報処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,745,101	711,812	2,456,914		2,456,914
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	1,745,101	711,812	2,456,914		2,456,914
セグメント利益	80,372	182,272	262,644	301,181	38,537

(注)1. 「調整額」の区分は全社費用を記載しております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、財務諸表の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額 (注) 2
	ビジネスフォー ム事業	情報処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,685,825	932,741	2,618,566		2,618,566
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	1,685,825	932,741	2,618,566		2,618,566
セグメント利益	129,020	163,439	292,460	268,568	23,892

(注) 1. 「調整額」の区分は全社費用を記載しております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、財務諸表の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、ビジネスフォーム事業での帳票印刷後、情報処理事業でデータ印字をする場合、売上高及び売上原価を全て情報処理事業で計上していましたが、第1四半期累計期間より、各事業のセグメント利益をその製品及びサービス内容に応じてより明確に管理するため、それぞれのセグメントの売上及び売上原価として把握し、管理する方法へと変更しております。また、従来、営業費用は全て各事業に配分しておりましたが、本社管理部門費用については、全社で負担することで、各事業セグメント利益をより適切に管理する方法へと変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報についても、当第3四半期累計期間のセグメント情報と同様の測定方法により作成し直しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は純損失金額()	14円40銭	6円07銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は純損失金額()(千円)	69,673	29,371
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は純損失金額(千円)	69,673	29,371
普通株式の期中平均株式数(株)	4,838,984	4,838,516

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

カワセコンピュータサプライ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 梶 浦 和 人 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 南 方 得 男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカワセコンピュータサプライ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第57期事業年度の第3四半期会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、カワセコンピュータサプライ株式会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。